

くわしく調べてみよう

ホームページ

環境省

日本の外来種対策



国立環境研究所

侵入生物データベース



環境省 特定外来生物 相談ダイヤル

アメリカザリガニ・アカミミガメ

【ナビダイヤル】

0570-013-110



ヒアリ

【ナビダイヤル】

0570-046-110



参考図書

- 1 ビジュアルデータブック日本の生き物（学研）
- 2 外来生物はなぜこわい？①～③（ミネルヴァ書房）
- 3 すべてがつながっている！生き物と環境3外来種とのつながり（岩崎書店）
- 4 最新日本の外来生物（平凡社）

しまねの外来種ガイド

令和5（2023）年3月発行

島根県自然環境課

〒690-8501 島根県松江市殿町128番地 東庁舎3階

Tel : 0852-22-6516 Fax : 0852-26-2142

E-mail : shizenkankyo@pref.shimane.lg.jp

外来種対策
ホームページ



本冊子の著作権は島根県に帰属します。掲載された写真やイラストを許可なく配布、改変利用することは禁止されています。

監修：井上雅仁（島根県立三瓶自然館）

写真協力：島根県立三瓶自然館、みなもかん

イラスト：つじいようすけ

しまねの

外来種ガイド

生物多様性の危機！
要注意な生きものたち



島根県自然環境課

はじめに

最近、外来種^{がいらいしゅ}の話題がニュースや番組などで取り上げられることが多くなりました。それだけ外来種^{がいらいしゅ}が日々の暮らしに影響^{えいぎょう}を与えることが増えてきたといえるのではないのでしょうか。今は自然と向き合い生物多様性^{せいぶつたようせい}を守ることが大切な時代であり、豊かな自然を守るためには外来種^{がいらいしゅ}への対策^{たいさく}も欠かせなくなっています。私たちのすむ島根県には豊かな自然がありますが、日本全国と同じように外来種^{がいらいしゅ}の問題も増えているのが現状です。

この冊子では、みなさんに伝えたい島根県^{しまね}の外来種^{がいらいしゅ}のことをわかりやすくまとめました。特に注意が必要な外来種^{がいらいしゅ}についても解説し、私たちにできることなどを紹介しています。

日ごろの生活や自然保護活動の中に活かすきっかけになればと願っています。

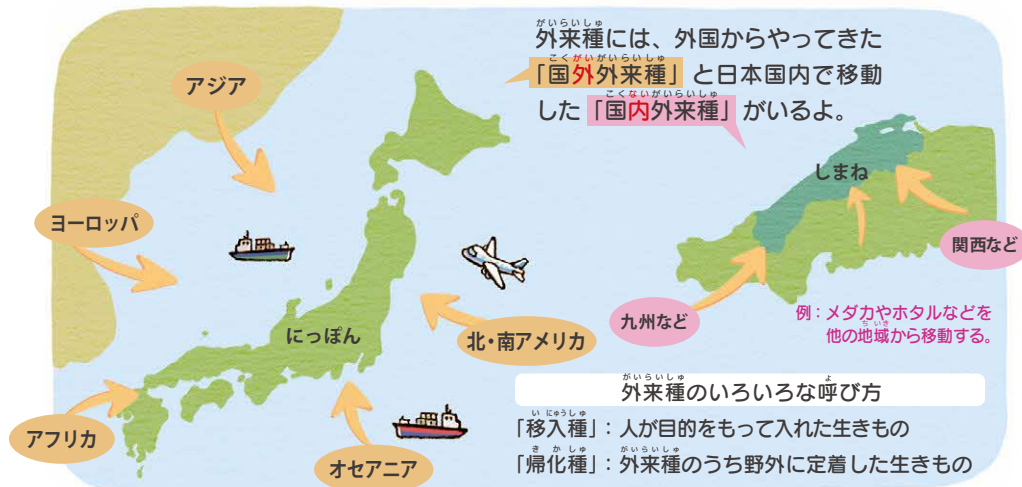
もくじ

- 外来種^{がいらいしゅ}ってなに？ 2
- 外来種^{がいらいしゅ}のなにが問題？ 3
- 気をつけたい外来種^{がいらいしゅ} 4
- 島根県で見られる陸の外来種^{がいらいしゅ} 5
- 島根県で見られる水辺の外来種^{がいらいしゅ} 9
- 私たちにできること 13
- 島根県内での取り組み 14



外来種^{がいらいしゅ}ってなに？

「もともといない場所に人の手によってすみついた生きもの」のことを外来種^{がいらいしゅ}、または外来生物^{がいらいせいぶつ}と呼びます。それに対して「その場所にもともとすんでいた生きもの」を在来種^{ざいらいしゅ}と呼び区別します。日本には人のすむ以前からその土地で進化適応してきた在来種^{ざいらいしゅ}がくらしていますが、外来種^{がいらいしゅ}は人の移動が盛んになった明治以降^{めいし}に新しくすみついたものがほとんどです。日本には2200種以上の外来種^{がいらいしゅ}が入ってきているといわれています。



日本は島国であるため大昔は外国との間で行き来があまりありませんでしたが、今は飛行機や船で世界中の国と行き来が盛んになり、いろいろな国から外来種^{がいらいしゅ}が入りやすくなっています。

外来種^{がいらいしゅ}がやってきた理由のほとんどは人間が関わっています。連れてこられた生きものにとっては、ただその土地で生きようとしているだけなのです。

外来種^{がいらいしゅ}がやってきた理由

食料や餌として利用するため



ペットや園芸植物として楽しむため



有害生物を減らすため



ほかの荷物にまぎれこんだため



外来種はなにが問題？

① 在来種への影響

在来種を食べてしまう

オオクチバスやウシガエルのように食欲が旺盛な外来種は、小魚や水生昆虫などの在来種をたくさん食べてしまい、在来種の数減らします。



在来種のすみかや食べ物をうばう

アカミミガメが在来種であるイシガメのすみかや食べ物をうばうことで、イシガメは追いやられてしまいます。

在来種と交雑する

在来種と近い外来種が同じ環境にすみつくと簡単に交雑して雑種が生まれ、ももとの特徴や遺伝子をもつ在来種が姿を消すこともわかっています。



② 人のくらしや環境への影響

農作物が食べられる

アライグマは果樹や野菜、ヌートリアは野菜のほかイネなども好んで食べるため、農作物にも被害がでています。



人がケガをしたり、さされたり、病気になる

セアカゴケグモやヒアリなど毒をもつ危険な外来種もいます。デング熱を媒介するネッタイシマカも日本にすみつくことが心配されています。



環境を変えてしまう

ナガエツルノゲイトウなどの外来水草の中には繁殖力がとても強い種類があります。短期間で水面を覆い尽くし水辺の環境を変えてしまいます。



気をつけたい外来種

特定外来生物

日本には外来種の被害を防ぐための「外来生物法（特定外来生物被害防止法）」という法律があります。その中で決められた外来種のうち、特に問題となっているものやこれから問題になりそうなものを「特定外来生物」と呼びます。飼育・栽培、保管、運搬、輸入などが禁止されています。2021年8月の時点では、計156種の動植物が指定されています。

注 アメリカザリガニやアカミミガメは2023年6月1日から条件付特定外来生物の対象になるので注意しましょう。飼育は可能ですが、販売や放流は禁止されます！

しらべてみよう！

環境省ホームページ
特定外来生物の見分け方



くわしくは、さいごのページに紹介した環境省の相談ダイヤルへ

生態系被害防止外来種

特定外来生物とは別に、生態系や人間、農作物などに影響を及ぼす恐れのある外来種を環境省と農林水産省が選んだものです。日本の生物多様性を守るため、多くの人々に外来種への対策をおこない、意識をもってもらうために作られました。日本に定着することが心配される種も含まれ、2022年の時点では、計429種がリストアップされ3つのグループに分けられています。

総合対策外来種 310種

産業管理外来種 18種

定着予防外来種 101種

- 緊急対策外来種
- 重点対策外来種
- その他の総合対策外来種

総合対策外来種は、その被害の大きさなどによって3つに分けられています。

しらべてみよう！

環境省ホームページ
生態系被害防止外来種リスト



日本の侵略的外来種ワースト100

外来種の中でも特に注意が必要なものを「侵略的外来種」といい、日本生態学会が2003年に100種を選びました。その後特定外来生物に指定されたものもあれば、ホテイアオイなど今も販売されている身近なものもあります。日本にまだすみついていない外来種も含まれます。

「世界の侵略的外来種ワースト100」という国際自然保護連合が指定したものもあります。クズやイタドリなど日本の在来種も対象になっています。

さいごのページに紹介した参考図書②にすべてのリストがのっているよ！

鳥根県で見られる陸の外來種たち

自然の少ない街中の住宅地から緑の多い里山まで、私たちのくらす身近な場所に外來種たちはすみついています。家に入り込んだり、畑に農作物を食べにくるアライグマ。オオキンケイギクなど花がきれいで目立つ植物は目にする機会がたくさんあるのではないのでしょうか？

● 特定外來生物 ■ 生態系被害防止外來種 ▲ 日本の侵略的外來種ワースト100
 ☞ピックアップ(次のページに解説があるよ) 【】は原産地

ソウシチヨウ



【東アジア・東南アジア】
口笛のようにさえずる小鳥

ツルニチニチソウ



【ヨーロッパ】
日陰でもよく増えるツル植物

ブタナ



【ヨーロッパ】
タンポポに似たキク科の外來植物

マツヘリカメムシ



【北アメリカ】
最近、鳥根県にも入ってきた松の害虫

セアカゴケグモ



【オーストラリア】
黒と赤のツートンカラーの毒グモ

アライグマ



【北アメリカ】
黒いアイマスクとしましまのしっぽが特徴

セイヨウタンポポ



【ヨーロッパ】
アスファルトのような環境にも強い外來タンポポ

セイタカアワダチソウ



【北アメリカ】
秋に黄色い花を咲かせる背の高い雑草

ハリエンジュ



【北アメリカ】
別名 ニセアカシア
枝などに鋭いトゲがある

オオキンケイギク



【北アメリカ】
初夏に黄色い大きな花をたくさん咲かせる

シナダレスズメガヤ



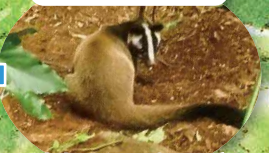
【南アメリカ】
道端にはびこるイネ科の雑草

コマツヨイグサ



【北アメリカ】
夕方から夜にレモン色の花を咲かせる

ハクビシン



【東南アジア・中国など】
顔の白いすじが特徴

アレチウリ



【北アメリカ】
果実に細かいトゲがある

アライグマ

原産地 北アメリカ



写真：環境省提供

すぐそばにいる？ 拡がり続ける被害

1970年代にアニメがきっかけでペットとして人気でしたが、飼いきれなくなったり逃げだしたりして野生化しました。全国各地に拡がり、島根県でも拡がりつつあります。

- 特徴**
- 目の周りの黒いマスク模様。
 - しましま模様のしっぽ。
 - 耳のふちが白い。
 - 姿がなくても足あとで確認できることがある。



足あと

被害 県内では西部を中心に農作物や住宅への被害がでている。カエルやサンショウウオ類など水辺の在来種もよく食べてしまうので、生態系への影響が大きい。



民家にも入りこむ

注意 かわいらしい見た目だが、凶暴なので絶対に顔をあげたりしないように。被害が拡がる前に各市町村にすぐに連絡・相談をする。法律にもとづいた捕獲をおこない専門の業者にたのんで防除をする。

セアカゴケグモ

原産地 オーストラリア



写真：環境省提供

おそ 恐れていた毒グモが島根にも侵入

1995年に日本で初めて確認されてから、駆除がうまくいかず日本各地に定着してしまいました。島根県でも2012年から見つかるようになり今も駆除が続けられています。

- 特徴**
- メスは体長約1cm、全身真っ黒で腹部背面に赤い模様。
 - 夏に約200個の卵が入った袋(卵のう)を産みつける。



たくさんの卵のう

被害 メスのみが強い神経毒をもち、咬まれるとひどい場合には死に至ることも。ただし、攻撃的な性格ではないので、まだ大きな被害はない。夏に産卵をくり返し、民家の壁の隙き間や庭の植木鉢の下、道路の溝など身近な場所にすみつく。

注意 発見しても素手でさわらず、すぐに各市町村に連絡をする。駆除は手袋など防具をつけて殺虫剤をかけるか靴でふみつぶす。巣や卵がないか、近くにもいないかを確認することも大切。

ソウシチョウ

原産地 東アジア・東南アジア



特徴 赤いくちばしとオレンジ色の喉などカラフルな野鳥。江戸時代からペットとして飼育されていたが、今は特定外来生物に指定。

被害 人への被害はないが、在来の小鳥のすみかをうばうことが心配されている。県内でも見かけることが増えてきている。

注意 今後も生息の状況を注意深く見ていくことが必要。見かけたときは、野鳥にくわしい団体や施設に連絡をしよう。

セイトカアワダチソウ

原産地 北アメリカ



特徴 秋に黄色い小さな花をたくさん咲かせる。空き地から道路の法面、湿地などさまざまな環境に群生する多年草。

被害 ほかの植物の成長を抑える物質をだし在来植物を追いやってしまう。県内に広く定着しており、耕作放棄地に多くはびこっている。

注意 せまい土地であれば生えはじめに根から抜き取ると効果あり。農地では冬に耕したり、定期的な刈り取りで減らすことができる。

オオキンケイギク

原産地 北アメリカ



特徴 5月～7月によく目立つ黄色い大きな花を咲かせる。河川敷や道路沿いなどの日当たりのよい環境に群生する多年草。

被害 県内でも道路沿いや河川敷などに定着し、初夏から花が目立つようになる。在来植物を追いやってしまい、生態系に影響がでる。

注意 観賞用であったため、今でもきれいな花と思いついて庭に植えたままのことも。除去は花が咲き終わる前に根っこから抜き取る。

アレチウリ

原産地 北アメリカ



写真：環境省提供

特徴 手のひら型の葉をしげらせるツル植物。たくさんみの果実には、トゲと毛が生えていて服などにくっつく。一年草。

被害 一面を覆いつくし、ほかの植物が生えなくなる。県内の道路沿いや河川敷、飼料畑などに大繁殖している。

注意 生えていたら抜き取るなど早めに取り除く。次の年も土の中の種子から芽生えるため、続けて抜き取る。

鳥根県で見られる水辺の外来種たち

池や川、水路などの水辺にも外来種がたくさんいます。今や身近な存在になったコブハクチョウやアカミミガメ。姿の見えにくい水中にもブルーギルやサカマキガイなどの外来の魚や貝がすみついています。近年はナガエツルノゲイトウなど繁殖力の強い外来水草も増えてきています。

● 特定外来生物 ■ 生態系被害防止外来種 ▲ 日本の侵略的外来種ワースト100

* 条件付特定外来生物

👉 ピックアップ (次のページに解説があるよ) 【 】は原産地

アマゾンチカガミ



【南アメリカ】
丸く厚みのある葉を浮かべて育つ水草

ヌートリア



【南アメリカ】
水辺でくらす大きなげっ歯類

タイワンシジミ



【中国・台湾・朝鮮半島】
淡水にすむ外来のシジミ

タイリクバラタナゴ



【中国・台湾・朝鮮半島】
今では全国でもっともよく見られる外来タナゴ

ウシガエル



【北アメリカ】
大きな口でなんでも食らいつく大食漢

オオクチバス



【北アメリカ】
釣りの人気で全国に広がった外来魚

ホテイアオイ



【南アメリカ】
葉の付け根がふくらみ浮かぶ水草

ナガエツルノゲイトウ



【南アメリカ】
繁殖力がとても強いやっかいな水草

オオフサモ



【南アメリカ】
鳥の羽を束ねたような葉がフサフサしている水草

オオカナダモ



【南アメリカ】
川や水路にはびこっている水草

ブルーギル



【北アメリカ】
幼魚は青紫色で横じまが目立つ

サカマキガイ



【ヨーロッパ】
よごれた水でもよく増える巻貝

アメリカザリガニ



【北アメリカ】
人気者だけどじつはやっかい者

外来アゾラ類



【南北アメリカ・ヨーロッパなど】
別名 外来アカウキクサ
葉が真っ赤に染まるシダ植物

※ 複数の種が含まれており
その内のアゾラ・クリスタータは特定外来生物

コブハクチョウ



【ヨーロッパ・中央アジア】
目の前の黒いコブが特徴

アカミミガメ



【北アメリカ】
目の後ろの赤い模様が特徴

アカミミガメ

原産地 北アメリカ



被害 在来のイシガメのすみかをうばうことが問題に。小魚やエビ、水草も食べるので、在来の生態系に悪影響をあたえる。卵の数もイシガメと比べて多いなど繁殖力が強い。県内各地の池や川で日光浴をする姿をよく見かける。

ペット放棄問題の象徴

「ミドリガメ」の名で親しまれていたカメです。大きくなりすぎて飼いきれなくなるなど、野外に放されたことで日本中の川や池に定着してしまった代表的な外来種のひとつです。

特徴

- 頭の横の赤い模様が目立つ。
- メスは大きくなり、30cm 近くになる。
- 子ガメは全身が緑色で甲らは丸い。



注意

気性が荒いため、うかつに捕まえるとかみつかることがあるので注意しよう。捕まえたとしても移動させないこと。今すでに飼っているものは、野外には放さず最後まで責任をもって飼おう！

ナガエツルノゲイトウ

原産地 南アメリカ



被害 水路をつまらせたり、田んぼの稲の育ちを悪くする。水辺を覆いつくすので、在来植物のすみかをうばう。県内では、まだひとつの河川のみで見られるが、増えつつあるため被害が拡大する前に徹底的な対策をしていく必要がある。

根からも再生する驚異の侵略的植物

観賞用の水草として流通していましたが、捨てられるなどして定着し、全国各地の水辺に広がりました。条件がよいと爆発的なスピードで繁殖して水辺を覆ってしまいます。

特徴

- だ円形の葉とストロー状の莖。
- 湿った陸上から水中まで生える。
- 根からも再生する強い再生力。



夏から秋に咲く白い花

注意

根や莖など一部でも流れないように注意する。ほかの水辺の植物と見分けにくく、群落が増えてから気づくことがある。疑わしい植物が生えていたら、各市町村に確認しよう。

ヌートリア

原産地 南アメリカ



特徴

茶色の毛で覆われた水辺のげっ歯類。歯がオレンジ色で鋭い。筒状の長い尾がある。足には水かきがあり水中をすばやく泳ぐ。

被害

水生植物を好んで食べるため、イネの根をかじることがある。県内でも農作物への被害が多い。希少な貝の食害もある。

注意

放っておくと数がどんどん増えるため、発見したら自治体の主導によりわなで駆除する。巣穴を作りそうな水辺は注意が必要。

オオクチバス

原産地 北アメリカ



特徴

下あごのでた大きな口が特徴。繁殖力が強く、たくさんの卵を産む。バス釣り人気で密放流がおこなわれ社会問題になっている。

被害

口に入る生き物はなんでも食べてしまうため、在来種を減らし、水辺の生態系を壊してしまう。

注意

特定外来生物に指定されているため、生きたままの移動や放流は禁止されている。釣ったとしてもリリースはしないように。

アメリカザリガニ

原産地 北アメリカ



特徴

オスはハサミあしが大きく、全身が赤くなる。小さいときはこげ茶色のため、在来種のニホンザリガニとまちがわれることも。

被害

田んぼの畔に穴を開け農業被害にもなる。在来の昆虫や小魚を食べたり、水草を切ったりして水辺の生態系を壊してしまう。

注意

県内に広くすんでいて気軽に捕まえられるため、今でも家庭で飼うことも多いが、販売や放流は絶対におこなってはいけない。

アマゾンチカガミ

原産地 南アメリカ



特徴

水面に浮かびながら生育する水草。丸い葉はスポンジ状にふくらむ。泥に根が張ると葉はうすいスプーン形になり群生する。

被害

繁殖力が強く、在来の水草を追いやってしまう。近年、県内でも定着が確認され、農業用水路を埋めつくす被害がでている。

注意

今でも「アマゾンフロッグピット」の名で流通している。家庭で増えすぎたとしても外の水辺には捨てずに処分することが大切。

私たちにできること

① 被害を防ぐために守ること

外来種による被害を予防するため「外来種被害予防三原則」という3つのルールがあります。普段の生活につながるがあるので、守っていきましょう。

入れない

その場所に生息しない生きものを、他の場所から持ちこまないことです。外国からだけでなく日本国内にすむ生きものについても同じです。



捨てない

飼っているペットや栽培している植物を野外に放さないことです。わざとではなくうっかり逃してしまうこともあるので、管理をしっかりしましょう。



拡げない

野外にすむ外来種をほかの地域に分布を拡げる手助けをしないことです。外来種に餌をあげたりすることも数を増やす原因になってしまいます。



② 外来種を見つけたら

調べてみよう

その外来種がどんな種類か、特定外来生物や侵略的外来種ではないか、などを本やインターネットで調べたり、専門家に聞いてみましょう。また、増えていないか、在来種や私たちの暮らしに影響がないかを知ることが大切です。



防除をする

被害を防ぎ、取り除いたり捕まえたりすることを「防除」や「駆除」といいます。特定外来生物のように法律によって扱いがむずかしい場合があります。その生きものに適した方法があるので、まずは各市町村に相談してください。

個人でもできることがあるので、できることから始めてみんなで自然環境を守りましょう。

島根県内での取り組み

島根県の生物多様性を守るために外来種の防除を実践し成果をあげている各地の取り組みを紹介します。

松江堀川

松江市

アカミミガメ

城下町本来の在来種がくらす水辺を取り戻そうとアカミミガメなどの防除がおこなわれています。これまで行政や団体による活動があり、今は市民団体「まつえワニの会」のボランティアによって駆除活動が続けられています。



わなをかけて捕獲する様子

三瓶山

大田市

オオキンケイギク

大山隠岐国立公園内にある三瓶山では、周辺の道路沿いにオオキンケイギクが繁茂拡大しています。在来の貴重な植物と景観を守るため、地元自治会と「NPO法人緑と水の連絡会議」と行政とで駆除活動に取り組んでいます。



地道に手作業で抜き取る様子

出雲大社

出雲市

ウシガエル、アカミミガメ、外来植物

出雲大社の境内には多様な自然環境が育まれています。環境整備の一環で池など水辺を中心に継続的な外来種の防除がおこなわれ、今ではウシガエルやアカミミガメの姿は見られなくなりました。全国の神社でも先進的な取り組みです。



在来種のイシガメや水草がくらす「鏡の池」

うしおの沢池

雲南市

オオクチバス

大東町にある全国ため池百選のうしおの沢池では、密放流により増えていたオオクチバスを2011年に駆除し、7年間にわたる生態系修復事業がおこなわれました。今は事業が終了し、地域の財産として守られています。



希少な水草も復活した外来種の宝庫